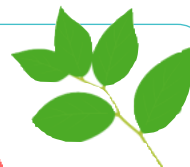




Since 1983

SSKO

おあしす通信



2026年度
第2号

編集 キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）

【特集】地域に支えられ、地域を支える働き方 —施設外就労の可能性—

熊本地震・
能登半島地震の
支援金募集します！

詳しくは
p8に！



門前仲町で愛され続ける老舗「みなとや」の皆様と。



社会福祉法人
おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6

TEL：03-5690-5959

<https://www.oasisfukushi.or.jp/>



就労継続支援B型／就労定着支援事業所

■オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811

就労継続支援B型事業所

■コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

■ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

■ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）

■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

公益事業

■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）

〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

地域のお店とつながり広がる、 利用者の働く体験の場

～おせんべいの封入作業に挑戦！みなとやでの施設外就労報告～

門前仲町の老舗せんべい店「みなとや」さんのご協力のもと、2025年1月からおせんべいの封入作業を行う施設外就労が始まりました。2024年12月にご相談をいただいてから準備を進めてきたこの取り組みは、難易度が比較的低く、それぞれのペースに合わせて無理なく取り組めるため、多くの利用者が挑戦しています。地域のお店と連携しながら、利用者の働く体験の場・機会を広げていく一歩となっています。



一つひとつ丁寧に
仕上げていきます。



就職目指して施設外就労に挑戦！

みなとやでのお仕事は、オアシス・プラスの外での仕事ということで興味を持ち、また以前から地域のお店の店として知っていたこともあり、挑戦することにしました。

実際にやってみると、様々な種類のおせんべいやらくがん、その他の商品に関わることができて発見があって楽しいです。お店の方々も、仕事をわかりやすく教えてくれて楽しい雰囲気の中で働いています。

みなとやでのお仕事は、オアシス・プラスの工賃よりも時給が高いこともあり、その分、より意識的に仕事に取り組もうという気持ちでいます。また、私は今就職活動中なので、みなとやでの施設外就労で、職場で効率よく仕事ができるように工夫したり、挑戦したことで自信につなげて、就職活動に活かしたいです。

(M・N)

おせんべいの香りと好きな音楽に包まれて

私は、もともと下町の雰囲気がある門前仲町の町が好きでした。そして、お煎餅も香ばしい香りが大好きなので、みなとやでのおせんべいに関わる仕事に興味をもち挑戦することにしました。

みなとやでの仕事は楽しく、職場もアレクサで最新の曲を聞かせてもらえたり、職場の方が優しく丁寧に仕事を教えてくれて、働きやすい職場です。

もう一つ魅力なのが、オアシス・プラスの工賃よりも、みなとやでのお仕事の時給が高いことです。その

おかげで自由に使えるお小遣いも増え、さらに家にお金を入れられることが嬉しいです。

私は、就職してオアシス・プラスをやめるまでは、みなとやでのお仕事も続けたいと思います。 (F・M)



どんなことも逃げずにチャレンジ！

私は、内職のようなお仕事は苦手意識がありましたが、苦手なことから逃げるのではなく挑戦しようという思いで、今回みなとやでのお仕事に参加しました。業務に携わって感じているのは、人の口に入るものを扱うこともあり、一つひとつの作業を丁寧にやろうということです。おせんべいの他にも、様々な商品の袋詰めなどをまかされますが、与えられた仕事をきちんとこなしていきたいという気持ちでいます。

みなとやのお仕事に参加して、経済的にも少しお小遣いが増えました。自分で働いて稼いだお金なので、胸を張って使えるのがいいなと思います。

私は、仕事をしているときは嫌なことも忘れられます。挫けそうになる時もあるけれど頑張ろうと思っています。何でもチャレンジすることが大事だと思います。 (F・Y)





みなとやさんのコメント

笑顔のステキな社長ご夫妻とスタッフ

門前仲町で米菓の製造・販売をしています。父から事業を継いで15年ほど経ち、少し事業が落ち着いた頃、地域の中で何か社会貢献につながる取り組みができないかと考えるようになりました。

学生時代のボランティア活動で知り合った知的障がいのある方が、支援学校卒業後に福祉作業所へ就労したものの、働くことに対する賃金はなかなか厳しいものだ、と、ご家族から伺ったこともきっかけの一つでした。

以前から通所施設に商品を持ち込み、簡単な軽作業をお願いしていましたが、もう少し「働くこと」に対する対価をきちんとお支払いし、次のステップにつながる機会をつくれないかと考え、オアシス・プラスさんに相談したことから施設外就労が始まりました。

食品を扱うため、持ち込みではお願いできる作業に



ギフトや自分へのご褒美にも人気の猫せんべい

限りがありましたが、実際に店舗へ来ていただくことで依頼できる仕事の幅も広がりました。簡単に見える作業でも、実際には手間と時間が必要です。その部分を担っていただけることは、私たちにとって大きな助けとなっています。これからも地域の企業として、働く機会をつくる取り組みを続けていきたいと思っています。



煎餅・豆・季節菓子処
みなとや
江東区門前仲町
2丁目4-9

地域に支えられ、地域を支える働き方 ～施設外就労の可能性～

障がい福祉の現場では、施設内での作業だけでなく、地域の企業や店舗で働く「施設外就労」があります。これは、障がいのある方が自分の力を活かし、社会とつながりながら働くための大切な仕組みです。しかし、まだ受け入れ先の不足が課題となっています。

私たちは、これまでの施設外就労の取り組みから、障がい者の働きたいという思いや力が、地域社会にもたらす価値も大いにあると確信しています。例えば、以下のような点です。

企業にとっての新しい戦力

精神障がいのある方は、丁寧さ・継続力・真面目さなど、業務において高い強みを発揮することが多くあります。単純作業だけでなく、事務補助・清掃・軽作業・接客補助など幅広い業務で活躍しています。

地域の理解が深まり、共生社会が前進する

企業や地域で、実際に障がい者と共に働き関わるこ

とで、「障がい」ではなく「人」としてつながるきっかけが生まれます。精神障害や障がい者への偏見が減り、地域のつながりが強くなります。

企業の社会的価値が高まる

障害者雇用や施設外就労の受け入れといった地域貢献は、企業の信頼性を高め、従業員の意識向上にもつながります。SDGs や ESG の観点からも、社会的責任を果たす取り組みとして注目されています。

精神障がい者が地域に支えられて働き、また地域を支える力にもなる。施設外就労は、そうした豊かな社会を築いていく可能性をもたらします。ぜひ、地域の企業の皆様にも興味をもっていただけたら幸いです。お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先
オアシス・プラス 03-5646-7811 (担当: 井本)

自分の「得意」を再発見!!

デイリースポーツから新しいお仕事をいただきました

みなさんは【推し活】という言葉をご存知でしょうか？推し活とは、アイドルや俳優・アニメのキャラクターなど、「一番好きで応援したい!」と思う対象を【推し】と称し、その推しをさまざまな形で応援する活動のことです。コム・オアシスでは、2026年から、デイリースポーツ様が発行している推し活をターゲットにした新聞の封入・発送作業を、新しいお仕事として受託しています。

デイリースポーツ様と言えば、誰もが知っているスポーツ新聞を発行しています。東京本社が江東区木場にあるというご縁でお声がけいただき、職員・利用者共に「デイリースポーツって、あのデイリースポーツ!？」と大盛り上がりでした。封入を依頼される新聞は、【推し活】をする方々が購入するもので、人気のアイドルやアーティストがライブなどを行った際の写真が大きく掲載され、ファンの方がコレクションするために注文するそうです。時代の波に乗ったお仕事はとても新鮮で、利用者が世間のトレンドや文化に関心を持つきっかけになればと期待していました。

はじめに、「決められた種類の新聞を、指定部数通り封筒に入れて封をする」という説明を受けた時、「コムの利用者の得意な作業だ!」と意気込みました。ところが、いざ作業に取り掛かると、新



封筒に入りやすいように二つ折りにしています。

聞の見分けがなんと難しいことか! 表紙の一面は写真も記事内容もよく似ており、慎重に区別する必要があり、職員と利用者で一丸となって行う作業となりました。最初は利用者から「新聞を言われた通りに折ったけど、封筒に入らないよ」「新聞を6部も入れるなんて、封筒を破いたらどうしよう!」と不安げな声もありました。しかし慣れてくると、「工夫をしたらなんとかなりそう」「この工程なら自分ではできる」と自分



封筒に新聞を入れている人と、セロハンテープで封止める人。

の得意なポジションを見つけられていました。また、普段のコム・オアシスではのんびりと作業することが多いのですが、締切りがある緊張感の中、間違いがないように責任を持って作業に向き合う姿を見ることができました。「次は誰の記事かな」と楽しみにしている人も出てきています。いつもと違う作業は不安を抱きやすい一方、今回のように挑戦することで「自分はこういうこともできるのか!」と自信につながる機会となりました。

このような素敵な機会をいただきデイリースポーツの皆さまに心より御礼申し上げます。またご依頼があった際には、みんなで一生懸命取り組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(山岡 望)



障がいがある人もない人も活躍できる
社会にするために、これからも地域のみなさま
と

一緒に様々な取り組みをしていきます。
今回のように、お仕事をご依頼いただける
企業・団体等いらっしゃいましたら

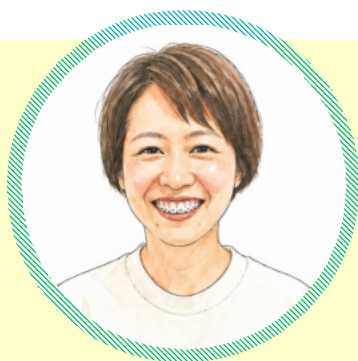


理念と志を胸に 「おあしす」で働き始めました

2026年度、あらたに採用した3名の常勤職員を紹介します

大網愛梨と申します。多くの研修や現場での業務を通して、利用者の思いに寄り添い、温かい笑顔や丁寧な姿勢で接する先輩の姿に深く感銘を受けました。私は、福祉を学び始めた時から一人一人の声に耳を傾けたいという想いを大切にしてきました。その原点を胸に、ただ業務をこなすだけでなく、利用者に寄り添い、気軽に話しかけてもらえるような安心感を与えられる職員になりたいです。

（オアシス・プラス 大網 愛梨）



石川陽子です。2026年4月よりコム・オアシスに配属となりました。介護職の経験を活かしながら、新しいことも一つずつ学んでいきたいです。子育てと仕事の両立の難しさを感じつつも、日々なんとか頑張っています。利用者さんや地域の方の声にしっかりと耳を傾け、その方にとって少しでもプラスになるような仕事ができる職員になりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

（コム・オアシス 石川 陽子）

2025年8月に入职いたしました、静岡県出身の高橋京太郎と申します！おあしす福祉会の職員として、利用者にとって、「常に心強い味方」でいられるよう日々精進してまいります。地域の皆さまと共に、お互いが安心して幸せを手に出る素敵なまちづくりを目指していきたいと思っております。座右の銘は「人間万事塞翁が馬」です。よろしくお願いいたします！

（コム・オアシス 高橋 京太郎）



おあしす福祉会では、障害をもつ人たちが、地域社会の中で人としての尊厳が守られ、価値のある存在として幸福を希求し、大切な役割をもち、自己実現を目指す事を支援の基本とし、職員は日々の関わりを通じて、ともに学び、互いに評価しあい、つねに考え続けます。そして、ご家族、地域市民、関係機関と連携し、障害をもつ人々が「地域の中で、ひとりの市民として認められ、相応しい役割がもてる」地域社会の構築を目指し、私たちは法人全体で取り組んでまいります。

人材募集！

ーすべての人が人としての尊厳を有し、自己実現を目指せる社会へー

私たち「おあしす福祉会」の理念に賛同し、一緒に働いてみたい！
と思った方、力になりたい！と考えた方、ぜひお問合せください。

※職員、インターンシップ、ボランティア等募集中。おあしす福祉会ホームページ参照。



「退院したい」と言えるということ

東京都入院者訪問支援事業に参加して

地域移行支援で、22年間入院していた方の退院支援に関わった。支援開始からわずか6か月ほどで退院することができた。もちろん、本人の力や地域の支援者とのつながり、住まいの確保など、さまざまな条件が整った結果である。それでも、22年間の入院生活を思うと、「なぜ、もっと早く退院できなかったのだろう」という戸惑いが残った。

「退院したい」と言わなかった理由

退院支援会議で、主治医が「22年間、一度も本人から『退院したい』と言われたことがなかったので、ここまで長くなった」と話した。その言葉を聞いた瞬間、心の中で「そんなことあるかーい！」と叫んでいた。

ところが、後日、本人にそのことを尋ねると、意外な答えが返ってきた。「僕は、お金がなかったから、一人暮らしできると思わなかった」。その言葉に、ハッとした。本人に「退院したい」という気持ちがあったのではない。退院する方法や、退院後の生活が自分にも可能なのだという情報を知らなかったのではないか。「退院したい」と思うためには、まず「退院できるかもしれない」と知ることが必要なのではないだろうか。

入院中、情報はどこから届くのか

地域活動支援センター ウィル・オアシスの利用者とのミーティングで、「入院した時、退院するための情報は、どこから得ましたか？」と尋ねてみた。その場にいた6名全員が、「他の患者さんから教えてもらった」と答えた。「個室から大部屋に移ると、退院が近いよ」「外泊を2回すると退院だよ」。そんなふうに、患者同士で情報が伝えられているという。もちろん、すべてが正確とは限らない。それでも、患者同士の口コミが、入院生活の中で得られる重要な情報源になっていることに驚いた。

今回の経験から、全ての病院に当てはまるわけではないだろうが、精神科病院には、入院者に必要な情報が届きにくい構造があるのではないかと考えるように

なった。制度や福祉サービスがあっても、知らなければ「自分には関係のないもの」になってしまう。

「入院者訪問支援事業」への参加

そんな問題意識から、東京都の「入院者訪問支援事業」に参加することを決めた。この事業は、主に外部との交流が途絶えがちな医療保護入院者等を対象に、本人の求めに応じて訪問支援員が精神科病院を訪問し、入院中の生活について話を聴いたり、必要な情報を伝えたりするものである。東京都では、精神保健福祉法の改正に伴い、令和6年度から実施されている。

7月の終わり、東京都西部の精神科病院を訪問した。お会いした50代の男性は、この事業の利用が2回目、すでにグループホームへの入居が決まっていた。前回よりも関わる支援者が増えており、「これなら安心だな」と感じた。一方で、男性のこんな言葉が強く印象に残った。「病院の中で、こうやって笑って話をしたのは何年ぶりだろう」。退院が決まったことだけが、その人にとっての変化ではないのだと思う。

自分の話を聴いてくれる人がいる。自分のことを一緒に考えてくれる人がいる。病院の外にも、自分とつながってくれる人がいる。そうした「つながり」そのものが、長い入院生活の中で失われていたものを、少しずつ取り戻していくのかもしれない。

「知らなかった」をなくすために

今回の経験を通して、改めて情報と人とのつながりの大切さを感じた。「退院したい」と言わなかった人が、本当に退院したくなかったとは限らない。「知らなかった」「自分には無理だと思っていた」ということもある。

だからこそ、「退院したい」と言葉にできる人だけではなく、「退院できるなんて知らなかった」という人にも、必要な情報とつながりが届く仕組みが必要なのだと思う。私自身も一人の訪問支援員として、そして地域の支援者として、その人の話を聴くことから始めていきたい。

（磯田 渉）

「寄り添う」ということ、「支え合う」ということ

熊本地震から10年、再び起きた地震 私たちにできることは

■なぜまた熊本で地震が起きたのか

10年後に再び起きた震災に、やるせない気持ちを吐露する声が多く聞かれた。今回の地震については、2016年の地震の際に動いた活断層との関連を指摘する声も多かった。研究者たちは再び大地震が発生することを予測し、2016年の経験をふまえての災害対策もおこなわれてきた。

しかし、連日の猛暑が続く中で今回の被災は、断水や停電により、避難生活を苛酷なものにした。熊本は2016年の地震の後、度々の豪雨にも見舞われてきた。被災した地元の人々の心理的なダメージは大きい。

■「また起きるのではないか」という不安を抱えて

おあしすの支援活動に協力してくれている熊本在住のシンガーソングライター 樋口了一さんは今回の地震について、こんな風に伝えてくれた。

「今回の地震は、熊本の北と南で被害の明暗がはっきり分かれている感じがします。見る限りでは、市内はそんなに目立った損傷があるようには見えません。やっぱり南ですね。宇城市、八代市、氷川町のエリアです。それは前回の益城のような様子です。熊本市内は南区 樋口了一さん集中のようです。日奈久断層の割れ残りは、あとは八代海区间だから次回さらに南に被害が出る可能性が高い。二度目でこれだけ気が滅入るのだから、これにまた三度目も確率高く起きるのではないか、という状況は、復興のモチベーションに影響を与えそうです。」

■がまだせ！と言われるつらさ

「がまだせ」は熊本などの言葉で「がんばれ」「精を出せ」「しっかりしろ」といった意味で、前回の地震で応援の言葉として広まった。今回も「がまだせ！くまもと」という言葉を多く目にする。この言葉に奮起した人もいる一方で、「疲れ切った私たちに、さらにがんばることを求められているように感じ、つらい気持ちになった」



という声もある。強く印象に残る言葉は広く遠くまで届くが、その言葉に傷つく人がいる事も忘れてはいけない。

■それぞれの思いに寄り添うには

2011年の東日本大震災以降、東北、熊本、福岡と災害があった地域を訪問してきた。ソーシャルワーカーという「言葉」を大切に扱う仕事に就いていながら、どの被災の現場でも、自然の大きな力を前にすると、言葉を失い呆然と立ち尽くすしかなかった。現場を訪れる度に「被災の形はそれぞれに違う」と感じる。大災害は地域社会の弱点を顕在化し、少しの環境の差で被害の大きさと質は変わる。一人ひとりの感じ方も大きく異なる。さらに時間が経過するとその差は大きくなっていく。

そして、忘れてはいけないのは報道が減っても現地の人々の生活は続くという事だ。2024年の能登半島地震も復旧が終わったわけではない。15年前の東日本大震災についても、新たな生活を送る人がいる一方で、今も2万5千人もの避難者が存在する。

支援する立場にいる者は簡単に「相手の気持ちに寄り添って」などと言いがちだが、支援を続けるほど「本当に寄り添えているのか？」と、その難しさを実感し、「復興」という言葉が簡単に使えなくなる。しかし、「それでも何かできることはないか？」と考え続けなければならないとも思っている。今回の地震では、10年前に大きな被害に遭った益城町や西原村の方々が、自分たちも被災した中で、より被害が大きな八代市や氷川町などの支援に向かったそうだ。大きな困難に直面しても、お互いに支え合う人々を尊敬する。

「人は人のため/何かができるはず/それが生きてる意味だから」

10年前に益城町で出会った、自分の作業所が倒壊しても炊き出しを続けた九州ラーメン党の濱田龍郎さん作詞、樋口了一さん作曲の「小さき花の歌」の一節だ。

■令和8年熊本地震で被災された皆さまへ

この度の地震により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。私たちは、大変な状況にいる皆さまに少しでも思いを寄せ、できることを考えていきます。一日も早く安心して過ごせる日々が戻るようお祈りしております。
(武藤 康司)

※おあしす福祉会では令和8年熊本地震および能登半島地震で被災した方々のため、支援金を募集します。詳しくは8ページをご覧ください。

令和8年熊本地震・能登半島地震の支援金を募集します

令和8年7月28日、熊本県で発生した地震は各地に甚大な被害をもたらしました。亡くなられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまならびにご家族や大切な方が被害に遭われた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

熊本は2016年の地震の際に「被災地の子どもたちに木のおもちゃを贈る活動」をはじめとした支援活動をおこなって以来、何度も訪問し、今もお付き合いさせていただいている方々が多くいらっしゃる場所です。おあしす福祉会は様々な形で被災された皆さまの支援をおこなっていきたくと考えております。

合わせて、2024年の地震以降、未だ復旧・復興の過程にある能登半島地震についても支援金を募集いたします。



▲9月5日 ピアワーク・オアシス近くの鈴座カフェで開催のチャリティー落語会で木のおもちゃを販売、売上を全額寄付しました

今回、お預かりした支援金につきましては、被害が大きかった地域にある、以下の施設に寄付いたします。両施設とも当法人と交流があり、被災した中、現地で障害者支援に尽力されてきた団体です。

【熊本地震】 八代市 NPO 法人とら太の会

2016年の地震の際に訪問し、交流が始まりました。今回の地震でも子どもたちの笑顔が見られるよう木のおもちゃも合わせて寄贈します。



2016年の訪問時に撮影

【能登半島地震】

石川県珠洲市 社会福祉法人すすき

2025年よりピアワーク・オアシスと交流、東京のイベント販売ではすすきの製品も取り扱っています。



寄付については
こちら➡



郵便振替でのご寄付の場合

加入者名：おあしす福祉会

口座記号：00100 8 番号：82367

※ 熊本への寄付については通信欄に「くまもと 寄付」、能登への寄付については「のと 寄付」と明記のうえ、お申し込みください。

今後の予定 木のおもちゃ販売

10月

12日(月・祝) こどもプラザまつり

(江東区こどもプラザ 江東区住吉)

17日(土) 順天堂大学看護学部 順華祭 (浦安市)

17日(土)、18日(日) 江東区民まつり
(木場公園)

24日(土)～28日(水) 鈴座カフェ秋の文化祭
(江東区毛利)

25日(日) まちのリビング 緑道デイ
(亀戸緑道公園)

31日(土) まごころ市 (豊洲文化センター)

11月

1日(日) まこと大バザー

(まこと保育園 江東区冬木)

柳原健康まつり (足立区柳原)

7日(土) ボランティアまつり
(江東区文化センター)

江東ウィズふれあいまつり
(猿江2丁目公園)

8日(日) YMCAバザー
(江東YMCA幼稚園 江東区石島)

14日(土) 産業会館フェア (江東区東陽)

お問い合わせはピアワーク・オアシスまで (平日10～17時 03-5638-1775)